



## 京機短信 No.138 英文地図への疑問

小浜弘幸 (昭和32年卒、河本研)

「京機会初の国際会議」をたいへん嬉しく読ませていただきました。しかし、そこに付けられた地図と英文の説明(下図参照)を読んで、疑問を感じました。これらが誰がどのような目的で作ったのか判らないので、疑問を並べました。事情をよく知られた方が説明を加えていただければ幸いです。 : . . .

About 2000 years ago, Japan was civilized as colonies of three Kingdoms of Korean peninsula or as exiled

ここに書かれたような史実はない。3世紀にできた「魏志東夷韓系」では、韓族は馬韓、辰韓、弁韓の三つに分かれていたと記され、馬韓より百済、辰韓より新羅、弁韓より加羅・任那が出て、図のように、朝鮮半島に高句麗、新羅、百済が鼎立するのは、4世紀から7世紀のことで、7世紀後半には新羅が他の2国を滅ぼして、10世紀に高麗に亡ぼされるまで、半島を統一支配する。

Migration of folks into east coast islands

About 2000 years ago, Japan was civilized as colonies of three Kingdoms in Korean peninsula or as exiled regime.

About 100 years ago, Japan was westernized and tried to be an empire after European imperial countries and USA.

Tokyo University was founded as the first modern state university in Japan. It intended to produce potential officers to carry the imperial Japan.

Kyoto University was then founded against this character of the Tokyo University as the second university in Japan to produce potential academicians who can think freely.

長安 大唐

Japan always tried to model herself on the Civilization in continent.

Kyoto became the capital of Japan in the middle of 8 C., by copying the structure of the capital of Tang dynasty, Xi'an.

*The Motto of the Kyoto University during the 2. World War:*  
"In spite of dark clouds and the strong storm of fascism blows, we keep our tradition, Against-war and keeping Liberty."

中国は諸国並立の南北朝時代から、AD 581年、隋が全土を統一し、AD 618年、唐がこれを継ぎ、AD 907年まで続いた。従って、図のような4国並立の期間は、7世紀中頃の約半世紀間に過ぎない。

当時、日本は倭国として史書に残るが、半島南部の任那に進出、百済と同盟し、半島内で活動していた。奈良の石上神宮に残る4世紀末の七支刀の銘や、中国吉林省の高句麗・広開土王（好太王）碑（AD 414年建立）の碑文にはこれらの動きが記録されている。政治制度や仏教など大陸の文化・文物も、その間にいろいろなルートで日本に移ってきた。秦（ハタ）、漢（アヤ）などの言葉はその名残である。

7世紀後半に新羅の力が強くなり、圧迫された百済の要請で、倭国は2万7千人の軍勢を派遣したが、AD 663年8月、唐と新羅の連合軍に白村江の戦いで大敗し、前途に希望を失った百済の貴族数千人と共に、朝鮮半島より撤退した。日本に帰化した百済人は自身の生活を立てるとともに、大陸の文化などを広めた。今も百済の地名があちこちに残る。日本から隋へは、百済の仲介でAD 600年に始まる6回遣隋使が派遣され、遣唐使はAD 894年、菅原道真の建議で中止されるまで、およそ20回の任命があり、16回実際に渡海している。  
(史料は「国史大辞典」「日本史年表」による)

Kyoto University was then founded against this character of the Tokyo University as the second university in Japan to produce potential academicians who can think freely.

明治30年、京都帝国大学は理工学大学として設立され、機械・土木、採鉱・冶金、化学、電気、物理学・数学の教室で始まった。明らかに、帝国建設に必要な人材を育成することが目的であった。医学部がこれに続き、法学部など文科系の学部が後に加わり、さらに、大正時代の思潮や、権力の中心から距離をおいた立地条件なども影響して、反権力・自由の志もやがて醸成されていった。

The Motto of Kyoto University during 2 World War.

"In spite of dark clouds and the strong storm of fascism blows, we keep our tradition, Against-war and keeping Liberty."

戦時中、「反戦・自由」を称え、投獄された人があったことも事実だし、今も残る須田国太郎の描いた「学徒出陣」のように、学業を中断して出征した人が多かったことも事実である。「反戦・自由」が大学のモットーであったというのは、どういう根拠によるのだろうか。

(おわり)

# 南極クルーズ (その2)

長井俊彦 (S 3 9)

南極クルーズの楽しみはいろいろあると思いますが、いろんな動物たちの日本では見ることの出来ない姿に接することもその一つです。

クジラには数度遭遇しました。海面が突然盛り上がったようになり、黒いものが浮かんできます。ときどき、ブーッと潮が吹き上がり 2 頭が戯れているようでしたが、やがて絵に描いたように綺麗な銀杏の形をした尾っぽを高々と水面に突き出して海に潜ってゆきました。その瞬間を写真に収めるのは大変難しいのですが、かろうじてクジラらしい写真が撮れました。



これはクジラの頭部です。高々と尾っぽを上げたところはビデオでお見せできると思います

ゾウアザラシは、キングジョージ島に上陸したときに見ました。1頭のオスと十数頭のメスがハーレムを作っています。オスは身の丈が3メートルくらいで、メスはそれよりも大分小さいようです。浜辺に上がって何をしているのかというと、昼寝です。ときどき身体を動かして、そのたびにブルンと大きな欠伸をします。これは聞きようによっては大きなオナラのようにも聞こえます。どう見ても不釣合いに小さな手でときどき顔を搔く姿が、巨体であるのに愛らしさがあふれて愉快でした。



この手は、頭を搔く以外にどんな機能を持っているのでしょうか？

なんと言っても可愛いのはペンギンです。南極には5種類のペンギンが棲んでいるようですが、お馴染みの皇帝ペンギンはもっと南極の奥深くへ行かないとお目にかかれません。われわれが見たのはジェンツーペンギンとヒゲペンギンです。大きな群れを作っていて、勘定したわけではありませんが千羽以上になるのではないのでしょうか。ピョンピョンと飛び跳ねるような、歩くような姿も、雛に餌をやる姿も何時まで見ても飽きないものでした。



これはジェンツーペンギンです。なんとも愛らしい姿でしょう。背景の氷は氷河の先端です。

以上に動物たちのことを書きました。それはそれでまことに愛らしくいくら見ても見飽きないものでした。しかし、このクルーズの圧巻はなんと言っても氷河や冰山などの大自然そのものです。南極へ行っただと言っても、私たちが行ったのは南極半島のそれも先端に過ぎず、南極大陸を人間の身体にたとえると、小指のそ

れも先っぽに過ぎません。それでもアンタークティック海をクルーズすると、次々と流れてくる冰山を見ることができます。それらの色の神秘的な美しさは前に書きましたので、今度ははその大きさを書きます。今までの記録に残る最大の冰山は、293<sup>キ</sup>×35<sup>キ</sup>というのが2000年3月に記録されているそうです。大阪から293<sup>キ</sup>というと静岡を通り過ぎるのではないのでしょうか。もちろん私たちが見たのははるかに小さいものですが、それでも冰山の前にディスカバリー号を持ってゆくと豆粒くらいに見えるかもしれません。何れにせよ大自然のなせる業は途方もないものです。



卓状冰山の一つです。こういう冰山が次々と流れてきます。冰山の形の典型的なものは卓状冰山ですが、中には面白い形のものも見られます。

まるで人の頭のようなですね。スフィンクスといってもよいかも知れません。



以上、南極の一端をお話しました。まさに自然が作る芸術でした。帰りのブエノスアイレスでタンゴのダンスを見る機会がありました。これは人間の作った素晴らしい芸術と言えると思います。南極もタンゴも私の拙い筆では言い表せないものがあります。沢山DVDを撮ってきました。なお、私は旅行に出るといつも日記を書きます。今回も写真入の40ページほどのものを書きました。読んでやろ

うという奇特な方は以下のメールにご連絡ください。 それをお送りしても良いと思います。 連絡先は、[nagaitshk@yahoo.co.jp](mailto:nagaitshk@yahoo.co.jp)です。

(おわり)



## —— 京機短信への寄稿、 宜しくお願ひ申し上げます ——

### 【要領】

宛先は京機会の e-mail: [jimukyoku@keikikai.jp](mailto:jimukyoku@keikikai.jp) です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。 MSワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。 割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。

宜しくお願ひ致します。

## 第4話 「喜びを与えてあげる」、「地球に優しい」

S43卒 遠藤照男

これらは、ビジネスに?がったコピー（キャッチフレーズ）で、人の気持や環境を大切にす何となくとカッコイイ言葉に聞こえそうだが、傲慢な言葉だと思っている。

「喜びを与えてあげる」という表現は踏ん返り返って与えてやる表現であることを理解せず、無神経に使っている例が多いが、言葉を大切にす人間にとって、これは嫌な表現である。「喜んで戴けるようお手伝いしたい」、「喜びを分かち合いたい」という表現を思い浮かべることはなく、「喜び・・・」というカッコイイ修辭語を気軽に使っているようにしか見えない。

「地球に優しい」も傲慢な例である。「89年か'90年に出てきた、環境がビジネスに?り出した際のコピーと理解しているが、卑小な人間が偉大な大地に何かしてやろうなど、片腹痛い。「環境を大切にしなければならない。」と言えいいだけの話なのである。

人の命は地球より重いと云った政治家がいた。これを名言と云った人間がいたが、世迷い言そのもので、人の命に地球が取って変わるなどありえない話だが、卑小な人間に対峙するものとして地球を採り上げるのは傲慢である。

傲慢な人物が大嫌いな性格で、こんなのに出くわすとわざと相手と同じ態度に変えて対応する私も性格（たち）の悪い人間であるが、自分のことは棚に上げて、こんな私に対して怒る人間もいれば、私の態度の変化に気付かぬ人間もいる。どうも後者が多いような気がするが、嫌な思いをさせることにも、させられることにも全く無神経な人が多くなった。

言葉の意味や重み、謙虚さ、人の心への配慮を教えられることなく、或いは看過して育ってきた世代が確実に増大しており、50歳代も含まれる世代で、無神経な言葉が違和感無く交わされている。戦後のことば教育の誤りのひとつの現れであろう。

慢	… ラテン語: superbia.
妬	… ラテン語: invidia.
憤怒	… ラテン語: ira.
怠惰	… ラテン語: acedia.
強欲	… ラテン語: avaritia.
暴食	… ラテン語: gula.
色欲	… ラテン語: luxuria.

七つの大罪

## 京機会事務局よりのお知らせ

本年の京機会秋の総会は京大のホームカミングデイと同じ、11月13日(土)です。

また、機械系の「学生と先輩との交流会」は11月27日(土)に開催されます。

京機会総会では小惑星探査船はやぶさの話を会員の川口さんをお願い致しております。参加の程、ご予定下さい。

**部局同窓会主催講演会**

**16:45~18:00**

場所：百周年記念ホール  
主催：工学部京機会

演題：はやぶさ7年の旅  
講師：川口 淳一郎  
独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 (ISAS/JAXA)  
宇宙航行システム研究系教授  
「小惑星探査機はやぶさ」プロジェクトマネージャー

一般参加歓迎



ホームカミングデイの行事として以下のものも企画されていますので、それもお楽しみ下さい。また、同日、学年同窓会を開催するについては大学側が協力的ですので、有効にご利用下さい。

 **第5回 京都大学 ホームカミングデイ**

総合受付：時計台記念館1F

**全体会** **11:00~11:20**  
場所：百周年記念ホール

- ・松本 紘 京都大学総長 挨拶
- ・京都大学同窓会役員代表 挨拶
- ・海外同窓会代表 挨拶

**記念講演会** **一般参加歓迎**

場所：百周年記念ホール

**第1部 11:20~11:50**  
演題：京都大学の世界戦略 — 協調と競争をめぐって  
講師：森 純一 京都大学国際交流推進機構長

**第2部 14:00~15:00**  
演題：素粒子今昔  
講師：小林 誠 日本学術振興会理事  
2008年 ノーベル物理学賞受賞



写真提供：高エネルギー加速器研究機構

## ホームカミングデイ特別展 ～龍馬と半平太の手紙～

9:30～16:30

※入館は16:00まで

場所：京都大学総合博物館

幕末を駆け抜けた坂本龍馬や武市半平太の書状・絵画を、特別に期間限定《11/13(土)～11/21(日)》で公開します。附属図書館の収蔵庫に収められ、普段は目にするのできないものばかり。原文書ならではの躍動感あふれる筆致に、幕末の息吹を感じることができます。

<出陳目録>

- ①坂本龍馬書状
- ②武市瑞山書状
- ③武市半兵太自讃肖像并獄中書牘
- ④高杉晋作武市瑞山扇面書画

※11/13(土)は同窓生及び同伴者の方のみ観覧無料



写真提供：高知県立坂本龍馬記念館

## 清風荘

卒業生限定

10:00～12:00

西園寺公望が京都の別邸として使用していた屋敷。

改修が終わった茶室、色づいた紅葉と銀杏の木々に囲まれた美しい日本家屋、庭園を観ていただけます。

※1951(昭和26)年、国の名勝「清風荘庭園」として指定



ご希望の方は、時計台総合受付にてお申し出ください。入場券をお渡しします。

## 尊攘堂

一般参加歓迎

10:00～16:00

品川弥二郎が吉田松陰の遺志をくみ、維新における尊攘の功ある人々を顕彰するため創設。

現在の建物は、松陰の遺墨類を収めるため、1903(明治36)年に建立。

※1998(平成10)年、国の登録有形文化財として指定



ご希望の方は、尊攘堂へ直接お越しください。担当の教員が説明をいたします。

# マスターズ技術者求人情報

KMC会長 中谷征司 (1962卒)

関西支部のKMC（京機会MDTセンター）では京機会会員のキャリア活用事業の一環として、求人情報のご紹介を実施しています。

下記の情報に応募ご希望または関心お有りの方は、KMC人材マッチング部長 西宗（ニシムネ） [hnishimune@kansai-kikou.co.jp](mailto:hnishimune@kansai-kikou.co.jp) までご連絡下さい。

なお

1. KMCは人材派遣等の資格を持っていないため（少なくとも当面は）人材派遣業者などからの情報を仲介してご紹介するだけです。今回は、関西雇用創出機構殿（ホームページ <http://kansai-kikou.co.jp/> 関西の大手28社の出資による人材紹介/派遣会社（以下、関西機構と略記）からの最近の情報です。
2. 本情報はKMC人材マッチング部長であり、関西機構シニアコンサルタントである1965年卒の西宗久昭氏が仲介しています。
3. ご応募に対して、KMCとして特段の問題が無いと判断しましたら、関西機構に紹介いたします。
4. その後関西機構の責任担当者から、求人内容の詳細情報を提示されると共に案件との適合性判断の為（ご経歴に関する）質問が行きますので、ご対応下さい。
5. 関西機構として妥当と判断した場合は、同機構メンバーに登録の上、顧客へ紹介してもらう事になります。
6. 提示した情報は、日時経過により、候補者が先に決まってしまう場合もありますことを予めご了解下さい。
7. 本情報は京機会会員の皆様にお送りしています。ご希望・推薦があればご友人・知人の方々のご応募も検討します。

以上

2010.07.26 KMC人材マッチング部 (関西雇用創出機構)

No.	求人職種:業務	職位 年齢	業種/資本金/ 従業員数/設立	応募要件・他	勤務地/ 勤務条件	求人 No.
1	製品開発:プリント用・印刷用接着剤開発の技術指導及び部長の補佐	技術顧問 不問	化学メカ/10m\/ 40名/1948年	接着剤開発経験	近鉄奈良線 河内永和歩3分 勤務日数等応相談	KH291
2	研究補助:紙にニス塗工、耐摩擦性・光沢・諸物性を機械測定、結果を図表化及び結果の簡単な評価	技術補助 不問	化学メカ/10m\/ 40名/1948年	化学研究レポート作成経験	近鉄奈良線 河内永和歩3分 勤務日数等応相談	KH294
3	材料開発:新規開発した銅合金の製品化(生産性向上、品質安定化など)と更なる材料開発	研究開発 ~45歳	機械メカ/31,100 m\1,686名/ 1938年	金属材料に関するR&D経験必須。 銅合金鋳物経験歓迎。ポスドクの方も歓迎(ただし開発業務主体です)	大阪市住之江区の技術研究所 正社員(堺筋線天下茶屋社バス)	K10- 00092
4	研究開発:船舶用給電システム開発又は指導	研究開発 シニア可	電機メカ/60m\/ 128名/1956年	インバータ/ハイブリッド技術者。数百kWのモータ発停に関わる技術です。	愛媛県今治市 勤務条件応相談	KH298
5	設計開発:各種精密ギア類(工作機械用、産業用、高速(ターボ)用、船舶用、鉄道車両用、風力用ギアなど)の設計開発指導	設計開発 -指導者 不問	機械メカ/47.2 億?/132名/ 1978年	鉄道車両用ギアおよび大型ギア類の研究開発業務に10年以上勤務	韓国 光州広域市光山区 光州 河南工場 月間(約10)日(約2週)	KH300
6	生産管理:各種精密ギア類(上記)の生産管理・生産技術(工程改善、品質管理、設備計画、設備メンテ技術)の指導	生産管理 -指導者 不問	機械メカ/47.2 億?/132名/ 1978年	大形歯車生産経験10年以上	韓国 光州広域市光山区 光州 河南工場 月間(約10)日(約2週)	KH293
7	製造技術:各種精密ギア類(上記)の製造技術(原料、温度、工程等の条件明確化)の指導	製造技術 -指導者 不問	機械メカ/47.2 億?/132名/ 1978年	大形歯車製造経験10年以上	韓国 光州広域市光山区 光州 河南工場 月間(約10)日(約2週)	KH299
8	製造技術:高膨張泡システム(混合気+発泡機+消火薬剤)に関する製造技術(原料、温度、工程等の条件明確化)の指導	製造技術 -指導者 不問	化学メカ/1億?/ 15名/1987年	高膨張泡システムと同業界での製造経験10年以上	韓国 ソウル市江南区駅 忠清北道 陰城 月間(5~10)日	KH307
9	製造技術:高膨張泡システム(混合気+発泡機+消火薬剤)に関する製造技術(原料、温度、工程等の条件明確化)の指導	技術開発 -指導者 不問	化学メカ/1億?/ 15名/1987年	高膨張泡システムと同業界での開発経験10年以上	韓国 ソウル市江南区駅 忠清北道 陰城 月間(5~10)日	KH308
10	開発設計:高温高圧用バルブ(発電所および石油化学設備用鑄鋼バルブおよび各種コントロールバルブ)開発の指導	設計開発 -指導者 不問	機械メカ/4億?/ 40名/1991年	高温高圧用バルブ開発および設計分野10年以上勤務で設計能力保有 機械分野専攻者	韓国 忠清南道 牙山市 月間(22日)*3~6ヶ月	KH306

No.	求人職種・業務	職位 年齢	業種/資本金/ 従業員数/設立	応募要件・他	勤務地/ 勤務条件	求人 No.
11	生産管理:自動車用エンジンのシリンダーヘッドに装着され、燃焼室の混合空気の吸入、排気量を調節する連続可変バルブリフト用部品類の生産管理・生産技術(工程改善、品質管理、設備計画、設備メンテ技術)の指導	生産管理 -指導者 不問	金属加工/165億 ?/260名/1974年	加工工程設計業務に20年以上勤務	韓国 大邱廣域市 大邱城西工団 月間(5~10)日	KH304
12	製造技術:自動車用エンジンのシリンダーヘッドに装着され、燃焼室の混合空気の吸入、排気量を調節する連続可変バルブリフト用部品類の製造技術(加工条件など)の指導	製造技術 -指導者 不問	金属加工/165億 ?/260名/1974年	金属加工技術20年以上勤務	韓国 大邱廣域市 大邱城西工団 月間(5~10)日	KH305
13	生産管理:各種精密ギア類(上記)の生産管理・生産技術(工程改善、品質管理、設備計画、設備メンテ技術)の指導	生産管理 -指導者 不問	機械メカ/47.2 億?/132名/ 1978年	油圧チャック、油圧シリンダー生産、 工程技術業務に10年以上勤務	韓国 光州広域市光山区 光州 河南工場 月間(約10)日(約2週)	KH301
14	製造技術:各種精密ギア類(上記)の製造技術(原料、温度、工程等の条件明確化)の指導	製造技術 -指導者 不問	機械メカ/47.2 億?/132名/ 1978年	油圧チャック、油圧シリンダー生産、 工程技術業務に10年以上勤務	韓国 光州広域市光山区 光州 河南工場 月間(約10)日(約2週)	KH302
15	設計開発:各種精密ギア類(工作機械用、産業用、高速(ターボ)用、船舶用、鉄道車両用、風力用ギアなど)の設計開発指導	設計開発 -指導者 不問	機械メカ/47.2 億?/132名/ 1978年	油圧チャック、油圧シリンダー研究開 発業務に10年以上勤	韓国 光州広域市光山区 光州 河南工場 月間(約10)日(約2週)	KH303
16	機械設計、構造解析:CFD/CAEソフトを使用し、エンジンや車体構造を設計指導	嘱託 不問	設計コンサル /160M\ /41名/1996年	構造解析ソフトを使用したエンジン、ホ テ設計経験者 ヤンマー、ヤマハ、クボ タ、などエンジンメカ出身者限定	大阪市北区(大阪駅徒歩10分) 勤務日数等応相談	
17	設備設計:金属熱処理用工業炉の設計開発	部長 ~55歳	金属加工/48M\ /300名/1938年	熱処理(工業炉)設計経験者 設計経験10年以上	阪神なんば線 福駅徒歩7分 正社員	K10- 00241
18	品質保証:輸入原材料、新素材の製品安全性、品質の保証業務	担当 ~65歳	化学商社/378M\ /140名/1921年	医薬品、化粧品GMP実務経験者。 メーカーからのMSDS扱い経験 者は優遇。	地下鉄 東銀座駅徒歩5分 正社員(60歳以上は嘱託)	K10- 00248
19	各種メーカーや設備会社向け法人営業。顧客の生産/設備現場のニーズを適切に把握し、自社技術をアピール又は開発者/若手を指導	技術営業 不問	Soft&hard+Parts 製販/44M/12名 /1989年	コンピュータのソフト・ハードの基礎 知識、営業経験及び生産技術又は 設備管理/保全の経験必須。	JR山陰線 丹波口駅 歩5分 勤務条件応相談	
20	数10cm離れても感知可能な電波システム(一種のバーコード)を使った作業支援システムを商品化する上で無線関連の知識をカバーし開発業務を支援し、若手を指導する	技術 コンサル 不問	Soft&hard+Parts 製販/44M/12名 /1989年	無線技術の経験・知識必須。コン ピュータのソフト・ハードの基礎知識 要。	JR山陰線 丹波口駅 歩5分 勤務条件応相談	
T1	(注) 特許先行技術調査 (電気、電子、情報通信系)	調査実施 者(主席 部員)	特許庁登録調査 機関	・大卒以上:通算4年以上、短大・ 高等専門学校卒:通算6年以上の 夫々科学技術関連経験、管理職 相当の経験要。 ・年齢不問だが体力・気力・知力要。 ・下記「先行技術調査実施者育成 研修」を受講し修了すること。 ・専門技術力、技術文献の読解力、 コミュニケーション力、集中力、判断力、柔 軟性、協調性要。・パソコン操作 (ワード、エクセル、メール)要 ・2年以上の継続勤務ができること	大阪市北区芝田1-1-4 阪急ターミナルビル内 9:00~17:30 土曜、日曜、祝祭日 契約社員	
T2	特許先行技術調査 (機械、物理系)					
T3	特許先行技術調査 (土木、建築、農林・水産系)					
T4	特許先行技術調査 (化学、金属系)					

(注) 特許庁から受注した特許出願の内容を理解した後、サーチ端末でデータベースからその先行例となる特許公報を抽出し、比較検討した後、サーチレポートを作成する業務。特許庁(東京・虎ノ門)に出張して審査官に対面で報告説明する業務。

「先行技術調査実施者育成研修」

調査業務実施者(サチャー)は、独立行政法人工業所有権情報研修館(東京)で所定の研修(7週間)を受け修了(合格)する必要があります。修了後、「調査業務実施者」となります。研修は通常年間4回実施されます。

研修に関する費用(研修費:213,000円、交通費、宿泊費等)の取り扱いについては、別途お問合せ願います。社内の研修経験者等による事前教育、研修期間中のサポートを実施し、研修者の修了に向けて支援します。

詳細は [http://www.kansai-kikou.co.jp/patent\\_03.html](http://www.kansai-kikou.co.jp/patent_03.html) をご参照下さい。

ご連絡/問合せ先:KMC 人材マッチング部 西宗(ニシムネ)久昭

TEL:090-6828-0746

Mail: [hnishimune@kansai-kikou.co.jp](mailto:hnishimune@kansai-kikou.co.jp)

又は西宗の常駐場所:

〒530-0012大阪市北区芝田1-1-4 阪急ターミナルビル 16F

TEL:06-6292-8203

## 1. 「環境と金融に関する専門委員会」報告書の取りまとめについて

平成22年6月15日環境省 中央環境審議会総合政策部会

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=12609>

本報告書は、環境問題の克服に向けた金融の役割の大きさなど環境と金融の関わりについての考え方を示すとともに、環境金融の促進のための4つの具体的な施策を提案しています。環境省では、今後、本報告書において提案された施策の実現に向け、具体的な検討を進めていくこととしています。

### 1. 背景

地球温暖化問題をはじめとする環境問題の解決に向けては、あらゆる社会の仕組みを持続可能なものに変えていくことが必要となっている。そのためには、あらゆる経済活動を媒介するお金の流れ・金融も、持続可能な社会に適合したものに変えていくことが重要となる。そのような金融の動きは、我が国でも近年広がりつつあるが、今後、それを拡大し、持続可能な社会を作るためのお金の流れをさらに確実なものにしていくことが必要となっている。そのような問題意識のもと、昨年7月に環境大臣から中央環境審議会に対し「環境と金融の在り方について」の諮問が行われ、それを受け、同審議会総合政策部会に「環境と金融に関する専門委員会」が設置されたところ。同委員会は、末吉竹二郎 国連環境計画金融イニシアティブ特別顧問を委員長とし、金融機関等の実務家、学識経験者など計11人の委員で構成されている。

### 2. 報告書の概要

#### 1. 環境と金融の関わり

環境問題の解決に向けた金融の関わりについて、金融の責任の大きさ、金融が果たす具体的な役割、政策との連動の重要性などの考え方を示している。

#### 2. 具体的な政策の提案

具体的な政策として、以下の4つの提案を行っている。

[1] 温室効果ガス25%削減に向けた対策への円滑な資金供給の仕組み（リース手法の活用など）

[2] 年金基金による環境配慮投資の促進

[3] 企業の環境関連情報の開示・提供（有価証券報告書を通じた開示など）

[4] 環境金融の取組の輪を広げていく仕組み（日本版環境金融行動原則（仮称）の策定）

## 添付資料

環境と金融に関する専門委員会報告書（概要）[PDF 253KB]

[http://www.env.go.jp/press/file\\_view.php?serial=15828&hou\\_id=12609](http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=15828&hou_id=12609)

環境と金融に関する専門委員会報告書（本文）[PDF 653KB]

[http://www.env.go.jp/press/file\\_view.php?serial=15829&hou\\_id=12609](http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=15829&hou_id=12609)

## 2. 産業構造審議会環境部会地球環境小委員会 平成22年6月10日

政策手法ワーキンググループ（第1回）- 配付資料

<http://www.meti.go.jp/committee/materials2/data/g100610aj.html>

（議事要旨）<http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004672/index01.html>

資料1 議事次第（2KB）

<http://www.meti.go.jp/committee/materials2/downloadfiles/g100610a01j.pdf>

資料2 委員名簿（4KB）

<http://www.meti.go.jp/committee/materials2/downloadfiles/g100610a02j.pdf>

資料3 政策手法ワーキンググループの設置について（PDF形式：3KB）

<http://www.meti.go.jp/committee/materials2/downloadfiles/g100610a03j.pdf>

資料4 審議内容の公開について（3KB）

<http://www.meti.go.jp/committee/materials2/downloadfiles/g100610a04j.pdf>

資料5 地球温暖化対策の現状について（5,572KB）

<http://www.meti.go.jp/committee/materials2/downloadfiles/g100610a05j.pdf>

資料6 ワーキンググループにおける論点の例（4KB）

<http://www.meti.go.jp/committee/materials2/downloadfiles/g100610a06j.pdf>

資料7 ワーキンググループの当面の進め方について（7KB）

<http://www.meti.go.jp/committee/materials2/downloadfiles/g100610a07j.pdf>

## 3. 中長期ロードマップ小委員会（第5回） 平成22年6月3日 環境省

<http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-05.html>

【配付資料一覧】

資料1 ヒアリングの主な論点 [PDF 136KB]

<http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-05/mat01.pdf>

資料2-1 東京製鐵株式会社 ヒアリング資料 [PDF 312KB]

[http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-05/mat02\\_1.pdf](http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-05/mat02_1.pdf)

資料2-2 株式会社INAX ヒアリング資料 [PDF 496KB]

[http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-05/mat02\\_2.pdf](http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-05/mat02_2.pdf)

資料2-3 日本地熱開発企業協議会 ヒアリング資料 [PDF 1,079KB]

[http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-05/mat02\\_3.pdf](http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-05/mat02_3.pdf)

資料2-4 石油連盟 ヒアリング資料 [PDF 1,247KB]

[http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-05/mat02\\_4.pdf](http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-05/mat02_4.pdf)

資料 2 - 5 社団法人日本ガス協会 ヒアリング資料 [PDF 1,057KB]

[http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-05/mat02\\_5.pdf](http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-05/mat02_5.pdf)

資料 2 - 6 一般社団法人日本風力発電協会 ヒアリング資料

[http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-05/mat02\\_6.pdf](http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-05/mat02_6.pdf)

-----  
H22. 05. 28 中長期ロードマップ小委員会（第 4 回） 議事次第・資料

<http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-04.html>

H22. 05. 18 中長期ロードマップ小委員会（第 3 回） 議事次第・資料

<http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-03.html>

H22. 05. 12 中長期ロードマップ小委員会（第 2 回） 議事次第・資料

<http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-02.html>

H22. 04. 30 中長期ロードマップ小委員会（第 1 回） 議事次第・資料

<http://www.env.go.jp/council/06earth/y0611-01.html>

4. 「1990 年比 25%削減」の意味とこれからの日本の選択 2010 年 6 月 11 日  
～ COP15 を踏まえ戦略練り直しも～ みずほ総研論集 2010 年 II 号：

みずほ総合研究所

<http://www.mizuho-ri.co.jp/research/economics/pdf/argument/mron1006-3.pdf>

5. 世界各国のエネルギー起源 CO2 排出量の長期トレンドの分析

電力中央研究所

[http://criepi.denken.or.jp/jp/kenki\\_kaku/report/detail/Y09023.html](http://criepi.denken.or.jp/jp/kenki_kaku/report/detail/Y09023.html)

(リーフレット) [http://criepi.denken.or.jp/jp/kenki\\_kaku/report/leaflet/Y09023.pdf](http://criepi.denken.or.jp/jp/kenki_kaku/report/leaflet/Y09023.pdf)

(本文) [http://criepi.denken.or.jp/jp/kenki\\_kaku/report/detail/Y09023.html](http://criepi.denken.or.jp/jp/kenki_kaku/report/detail/Y09023.html)

概要

世界のエネルギー起源 CO2 排出量（以下、CO2 排出量）の削減見通しについての客観的な検討材料を得るため、1971 年以降の世界のエネルギー統計 1) および経済統計 2) を用いて、CO2 排出量およびエネルギー原単位の数十年単位での長期トレンドに関する国際比較を行った。主な成果は以下のとおりである。

1. 過去において、CO2 排出トレンドが減少に転じた国はあるか？

1971 年以降の世界 137 カ国の CO2 排出トレンドを比較した。戦争や政治的混乱などの理由を除き、平時において CO2 排出量の低下を経験した国は、欧州 5 カ国に限定される。これらの国においても、東西ドイツ統一や燃料転換の影響を除けば、長期の排出トレンドが明確に減少に転じたとは判断することはできない。すなわち、これまでの各国では政策努力のみによって、長期的 CO2 排出トレンドが明確に減少に転じた国は未だ存在しない。

## 2. 現在において、日本の製造業の原単位は、世界最高水準にあるのか？

1971年から現在にいたるまでの世界の製造業のエネルギー消費原単位の推移を、製造業全体および業種別に、金額ベースおよび数量ベースの両面から比較した。その結果、日本のエネルギー消費原単位は、依然として世界屈指のレベルにあることが確認された。製造業が躍進している中国については、業種別金額ベースで比較すると、エネルギー原単位は急速に改善しているものの、機械産業の一部（電気機械）を除くと、日本との格差は依然大きい。

## 3. 将来に関して、公表されているエネルギー原単位予測は、過去のトレンドと、どの程度異なるものだろうか？

### (1) 中国の原単位目標は野心的なものと言えるのか？

中国政府による、「2020年までにCO2排出原単位を2005年比で40～45%低下させる」という中期目標の達成可能性を、エネルギー原単位の側面から検討した。中国では、製造業でのエネルギー原単位の改善余地は依然大きく、また、過去においてもこの中期目標達成に必要なエネルギー原単位改善のペースは、30年以上の長期にわたって維持されてきた。このため、中国の中期目標は、高い経済成長を前提とすれば自然体で達成できることから、野心的なものとは言えない。

### (2) 世界のエネルギー消費原単位は長期的に収斂傾向にあると言えるか？

世界全体での大規模なCO2削減を描くエネルギー需給シナリオの多くでは、諸国のエネルギー消費原単位は低い水準へと単調に収斂していくことが想定されている。しかしながら、1972-2006年の間の世界105カ国のデータを用いて地域別に分析したところ、原単位の格差縮小とキャッチアップ（原単位が高い国ほど、より速く低下する）が有意に確認できたのは欧州、中東のみであり、世界経済のグローバル化が進展した1990年代以降では、これら地域においても、地域内の原単位格差は逆に拡大傾向にある。

## 6. 情報システムの環境配慮に関する検討報告書 (IS-10-情シ-5)

<http://www.jeita.or.jp/cgi-bin/public/detail.cgi?id=386&cateid=6>

電子情報技術産業協会

(本文)<http://home.jeita.or.jp/is/publica/2010/is-10-jyousi-5.pdf>

本報告書は、JEITA 環境ソリューション専門委員会で「企業におけるITの環境配慮をいかに取組むか」という課題に対し、各委員から出された意見を整理したものである。主に企業の情報システムを担当されている方々にご一読いただきたい。

## 7. 平成21年度 地域中小企業活性化政策委託事業地域の低炭素社会対応可能性に関する調査 (3月)

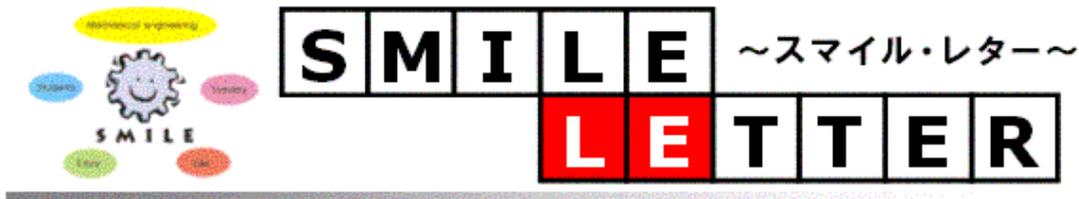
東北経済産業局

報告書(概要版) (PDF 1.9MB)

<http://www.tohoku.meti.go.jp/koho/report/pdf/100607abst.pdf>

報告書(全体版) (PDF 10.4MB)

<http://www.tohoku.meti.go.jp/koho/report/pdf/100607report.pdf>



## 講演会・学生会総会のご報告

学生会運営委員 M 志田航介

去る7月2日、京機会学生会は講演会・学生会総会を開催しましたので、下記の通りご報告します。

### 1. 講演会 18:15～19:00

講演会では、住友重機械工業株式会社相談役の小澤三敏氏（昭和33年卒）を講師としてお招きして、「社長になりたい人への助言」との演題にてお話していただいた。講演会の要旨は以下の通り。

「世界の企業環境が急速に変化し、安定職場が無くなる中で、相も変わらず機械系学生に、将来企業のトップになって事業を成功させたいと思う人を見かけない。遣り甲斐もあり、生涯賃金も大幅に高いのである。専門性だけがあれば好きなことが出来ると思うのは大間違いである。リーダー特にトップリーダーになる意欲のある人に有効な助言をしたい。」

講演会には昨年度の約2倍の72名という大勢の出席があり、出席した学生は大変熱心に耳を傾けていた。講演後の質問タイムの時間が多少オーバーするほどの盛況ぶりであり、次回開催を求める声もあった。講演会の最後は、学生会員とOBとの心の触れ合う機会が増えることを期待するということで締めくくられた。

機械系の学生として、専門的知識だけでなくリーダーシップが必要であることを再確認させられ、今後の進路決定においても大いに参考になった。

### 2. 総会 19:00～19:30

講演会に引き続き、平成22年度京機会学生会総会を開催した。総会では、役員選挙並びに下記の件の報告と承認があった。

#### (i) 前年度活動報告・会計報告

平成21年度の活動報告および会計報告について、前年度会長の津田(M2)から報告があった。

#### (ii) 役員選挙

本年度より、学生会役員（会長 1 名、副会長若干名、会計 1 名）を選挙で選出することとした。立候補者は定員と同数であり、会長に土田(M1)、副会長に河本(M1)、田宮(M1)、荒井(B4)、会計に田村(B4)とすることを信任した。

(iii) 学生会の名称変更

学生会の名称を京機学生会から京機会学生会に変更する案が河野助教により提起され、これを承認した。

(iv) 新年度活動方針

平成 22 年度の活動方針について、新会長の土田から報告があった。特に、本年 11 月 27 日開催の「学生と先輩の交流会」の内容について詳細な説明があり、時計台ホールでの講演会の開催が提起された。